

若手技師主導型スキルアップ『寺子屋』の取り組み

◎加藤 雄大¹⁾、赤羽 舞花¹⁾、藤上 卓馬¹⁾、松井 貴弘¹⁾、伊藤 彰洋¹⁾、窄中 美帆¹⁾、中根 生弥¹⁾
JA 愛知厚生連 豊田厚生病院¹⁾

【はじめに】

近年、ベテラン技師の退職に伴い、検査室の若年化が進んでおり、若手技師の『技師力』を身に付けることが早急に求められている。当院では、若手技師のスキルアップを目標に、若手技師による若手技師のための勉強会『寺子屋』を2017年11月より開講した。今回、我々が取り組んでいる寺子屋の活動内容について報告する。

【当院臨床検査技術科の年齢構成】

正職員44名、準職員5名、パート6名の計55名で構成されており、うち20代が17名、30代前半が10名である。

【新人教育】

2019年度は、4月から日当直業務（緊急検査項目）習得や基本的業務習得のために4か月ごとに生化学免疫検査、血液一般検査、生理検査をローテーションする。また、5月より採血業務のトレーニング（座学と技術）を開始する。

【寺子屋の取り組み】

2017年11月に臨床検査技術科技師長（現診療協同部長）と共にコアメンバー7名にて『寺子屋』を始動させた。教材は、『検査と技術』（医学書院）の2012年1月号～2013年12月号に掲載されている『検査値を読むトレーニング 信州大学 R-CPC』を用いている。1～2ヶ月に1回程度開催しており、参加者は、あらかじめ配布してある時系列の検査データを信州大学式 R-CPC の13STEP に沿って予習を行う。寺子屋開催当日は解答を配布せずに事前に割り振られた担当についての考えを述べ、意見の抽出を行い、その後、解説担当者が検査データおよび疾患の解説を行うといった手

順で行っている。信州大学式 R-CPC の13STEP にてコアメンバーがある程度理解し、他メンバーにも説明ができる様な状態になった2018年4月より参加人数を希望性により12名（当院スタッフ以外の企業若手 MR 2名を含む）に増員し、2019年4月には15名に増員した。

【まとめ】

若手技師が主導となって勉強会を開催する事により、検査データを読む能力の向上や日頃のコミュニケーションの場として疑問点を解消する事にもつながった。『寺子屋』では、検査データを点でとらえる R-CPC ではなく、時系列データとして線でとらえる R-CPC を用いて行う事で自分自身が担当している部門以外の検査データにも目を向けることができるようになり、広い視野を持って業務に取り組むことが出来るようになった。

また、この取り組みを通じて、検査データを見て説明することの難しさをあらためて痛感した。企業若手 MR や新人技師に対し、より分かりやすい説明を心掛けることにより、日本臨床衛生検査技師会が取り組む「検査説明・相談ができる技師育成」事業にも活かしていくことが出来ると感じた。

現在、当院若手技師は、緊急臨床検査士認定資格をはじめとする各種認定資格取得、学会発表、愛臨技研究班活動に積極的に取り組んでいる。今後も『寺子屋』をはじめとする取り組みを継続し、若手技師のスキルアップに寄与していき、検査室全体の向上につなげていきたい。

連絡先：（0565）43-5000 内線：2979